



わたなべ よしまさ  
**渡辺 佳正** 議員  
(日本共産党議員団)

## 北部地域の生活利便性向上と地域活性化について

**問** 市街化調整区域における店舗面積の規制緩和及び買物・通院支援の手段としての小型ワンボックスカー運行について、どう考えるか。

**部長** 地域の実情に合った規制緩和の手法について検討するとともに、地域の方々に交通対策に関する提案・情報提供を行っていききたい。

**問** 国立病院機構静岡富士病院の跡地活用について、どう考えるか。

**部長** 医療・福祉施設あるいは医療研究所などの分野を含め、民間による土地の有効活用を幅広く検討していくことも必要と考える。

## 地産地消と遊休農地活用の推進について

**問** 学校給食食材供給団体（仮称）の設立で地産地消の推進と遊休農地の活用につながると考える

が、いかがか。

**部長** 平成30年度1月現在で、学校給食における富士宮産の野菜使用率が34.4%と伸びているので、現在の仕組みを維持していく。

## 命に関わる生活道路の拡幅問題について

**問** 救急車や消防ポンプ車が入れない狭あい道路の拡幅はどのように進んでいるのか。

**部長** 過去3年間で21件の生活道路拡幅を実施している。複数年の継続事業となるため、予算の範囲内で実施中の路線が完了後、次の優先度が高い路線を選定し、事業化していく形で計画している。

**問** その実績と計画を市民に知らせてほしい。

**部長** 予算の確保状況と優先順位などについて、できるだけ丁寧に説明していきたい。



の も と たかゆき  
**野本 貴之** 議員  
(蒼天)

## 介護予防・日常生活支援事業の課題と提案

**問** 次期の計画を策定するにあたり地域包括支援センターの設置個所の増加や生活圏域の見直し、職員の増員を提案するが、どうか。

**部長** 今後更なる高齢者人口の増加が見込まれるため、次期計画を策定する中で箇所数や配置職員数も含めたあり方を検討したい。

**問** 民間の既存サービスを活用する受け皿を市がつくっていくべきと提案するが、どうか。

**部長** 民間の既存サービスの活用を視野に入れるべきと考える。さまざまな主体がサービス事業を行う場合、市の生活支援体制整備事業であることを明確にし、安心して利用してもらう必要があり、議員提案のように考えていきたい。

**問** 各事業所のケアマネジャーは利用者が住んでいるそれぞれの地域包括支援センターの主任ケア

マネジャーと連携・指導を受けているが、移動時間等が業務の負担になっている。工夫は。

**部長** そういふことがあると推察する。今後、負担が増えるようであれば対応の仕方について考えていきたい。

## 大規模災害時の生活用水の確保と提案

**問** 富士宮市地域防災計画に生活用水の必要量は含まれているのか。

**部長** 第1次給水（発災から3日間）は生命維持のための最小限量としている。第2次給水（発災4日～7日）より後に最低限度の洗濯や浴用に必要な水量としている。一般的に必要なとなる1人1日200ℓの給水までは、約1カ月要する。

**問** 生活用水確保のために井戸の協力協定の締結や防災井戸の整備を提案するが、どうか。

**部長** 防犯上や個人のプライバシーの問題があり、市として進める考えはない。防災井戸の整備も膨大な費用など諸課題があり、市として考えていない。ただ、生活用水の確保は必要なので、自助や各自主防災会の共助を促したい。